

北河内支部

大東市立三箇小学校支援学級には、知的障がい学級3学級、自閉症・情緒障がい学級4学級、病弱・身体虚弱学級1学級があり、様々な特性を抱える児童が在籍しています。週に2時間行っている合科学習では、体育的・文化的な活動に加え、昨年度より外国語活動を取り入れています。月に1度、校区の中学校のAETに来ていただき、英語や異文化の学習を進めてきました。

昨年度は、“Hello.”や“Good morning!”などのあいさつ表現や、“I’m ○○.”という名前の言い方、“I’m happy/sad/hungry/sleepy.”など気持ちの表現に取り組んできました。普段、分からないことを自分から聞くことが難しい子どもたちも、外国語活動のときは「え、どういう意味!?’」「○○って英語でなんて言うの!?’など、積極的に聞くことができました。

今年度は、分からないことを英語で聞けるようになることを目標に、“Pardon?”や“Hint please.”などの言い方を学習してきました。分からないということが恥ずかしいことではなく、それを聞くことも自分を表現する手段の一つであること。また、分からないと声を上げた友だちを受け入れることの大切さを学んでほしいと考えています。

1学期は、「動物になりきって、英語で表現しよう」を目標に、動物の名前を英語で言ったり、歌をうたったり、読み聞かせをしたりしてきました。学習のしめくくりとして、“PEEK-A-BOO GAME”と称し、グループごとにカードを引き、引いたカードの動物になりきって、ものまねや英語でのヒントを出し、何の動物かを当て合うゲームをしました。そのなかで、動物のものまねを考え、みんなの前で発表することに強く不安を感じている子どもがいました。引いた動物のものまねを急に考え、発表するのが難しかったのです。そこで、事前に引くカードを決めておき、グループ内でものものまねもヒントの出し方も考えておきました。すると、本番ではグループの友だちと一緒に発表でき、英語でヒントを出し合うこともできました。

「外国語活動」という新しい取り組みのなかで、子どもたちにとって得意なこと、苦手なこと、頑張れること、そうでないことはたくさんあります。しかし、できないことに焦点を当てるのではなく、自信をもってできるやり方で苦手なことにも挑戦してほしい。そう願いながら、今後も外国語活動を続けていきたいと考えています。



文責

大阪府大東市立三箇小学校
支援学級担任 堀家真理恵